Cisco Business Edition 7000 インストール ガイド、リリース 10.5(1)

初版：2014 年 05 月 22 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

Text Part Number: OL-32341-01-J

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

© 2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

はじめに v

準備 1

必要なネットワーク情報 1

インストール 3

電源オンおよび初期設定 3

リモート アクセスのための ESXi ホストのカスタマイズ 6

ESXi ホストへのアクセスおよびその設定 9

データストアにプリロードされたファイル 13

仮想マシンの展開 14

仮想マシン上でのアプリケーションのインストール 16

アプリケーションのインストールの例 20

Cisco Unified Communications Manager のインストール 20

Cisco Video Communications Server のインストール 21

初期設定 23

ライセンスの参照、セットアップ、および適用 23

この後の学習内容 24

詳細情報 25

はじめに

Cisco Business Edition 7000（BE7000）は、最大 1000 人の従業員の組織向けに設計されています。このソリューションでは、優れた音声、ビデオ、モビリティ、メッセージング、会議、インスタント メッセージおよび可用性が提供され、単一の統合型プラットフォーム上でコンタクト センター機能が実装されます。 このソリューションでは、中堅企業がバリュー チェーン全体の改善されたコラボレーションに必要なコア コミュニケーション機能が提供されます。

このマニュアルでは、BE7000 サーバを設定する方法と各種のコラボレーション アプリケーションをインストールする方法を、手順に沿って説明します。

- Cisco Prime Collaboration Provisioning
- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service
- Cisco Expressway
- Cisco TelePresence Conductor
- Cisco TelePresence Server
- Cisco TelePresence Management Suite
- Cisco Unified Contact Center Express
- Cisco Emergency Responder
- Cisco TelePresence Video Communication Server
- Cisco Unified Attendant Consoles
- Cisco Paging Server

BE7000 は、Cisco Unified Computing System C220M3 ラックマウント サーバから構成されており、次のコンポーネントを含んでいます。

- RAID アレイとして用意されたフォーマット済みディスク ドライブ、プレインストールおよびライセンス供与済み
- Cisco Virtualization Hypervisor（VMware ESXi）

- プレインストール済み Cisco Collaboration 仮想マシン
- データストアにプリロードされた Cisco Collaboration アプリケーションのインストール メディア
- プロモーション用 TelePresence VCS-C ライセンスの製品アクティベーション キット

また BE7000 は、Cisco Collaboration アプリケーションのライセンスで構成されています。 ライセンスは電子メールで別に提供されます。

設計と仮想化の詳細については、Business Edition 6000 のアプリケーション要件を参照してください。

第 1 章

準備

（注） 梱包ボックスに含まれている『*Quick Start Guide (QSG)*』に示されているように、Cisco Business Edition サーバがラックに取り付けられ、電源および顧客データ ネットワークに接続されていることを確認します。モニタおよびキーボードがサーバに接続されていることも確認します。

インストールを続行する前に、データ ネットワーク管理者からネットワーク情報を収集します。

• 必要なネットワーク情報，1 ページ

必要なネットワーク情報

データ ネットワーク管理者から次のネットワーク情報を収集します。

- 次の IP アドレス：
  - VMware Hypervisor (ESXi)
  - インストールする各コラボレーション アプリケーション
  - （任意）リモート CONSOLE アクセスが必要な場合、CIMC
- Subnet Mask
- ゲートウェイ IP アドレス
- DNS サーバの IP アドレス
- 各アプリケーションのホスト名
- （任意）ドメイン名
- NTP サーバの IP アドレス
- タイム ゾーン
- （任意）SMTP サーバ

次のセクションでは、BE7000 サーバをインストールするための手順を示します。 必要なネットワーク情報を収集した後、マニュアルの残りの手順に注意深く従ってください。

第 2 章

インストール

- 電源オンおよび初期設定，3 ページ
- リモート アクセスのための ESXi ホストのカスタマイズ，6 ページ
- ESXi ホストへのアクセスおよびその設定，9 ページ
- 仮想マシンの展開，14 ページ
- 仮想マシン上でのアプリケーションのインストール，16 ページ

電源オンおよび初期設定

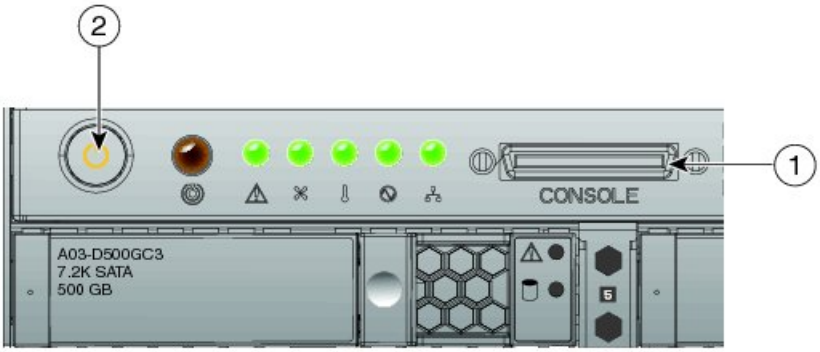
手順

ステップ 1 下図のように、モニタとキーボードがコンソール ポートに接続されていることを確認します。

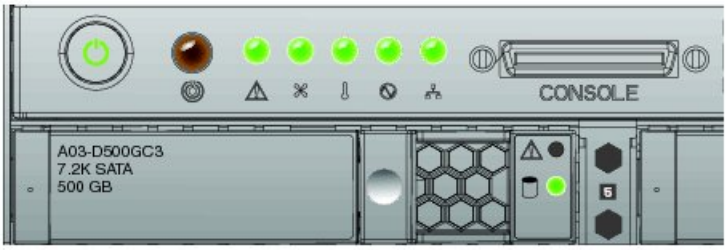
ステップ 2 電源が接続されており、LED ステータスが下図のように表示されていることを確認します。

電源ボタン LED（2）がオレンジで、コンソール ポート（1）と電源ボタン間の 5 つの LED はグリーンになっています。 そうでない場合は、電気系統とネットワークの接続を確認します。

図 *1*：電源オン、コンソール ポート、および *LED* ステータス



Electrical Power is connected.
But server is not powered on yet.



LEDs status after Power-On

ステップ 3　モニタの電源をオンにします。

ステップ 4　電源ボタン（図 1）を押し、電源ボタン LED ディスク LED ディスク ドライブが緑に変わることを確認します。

ステップ 5　モニタでブート プロセスを視聴します。

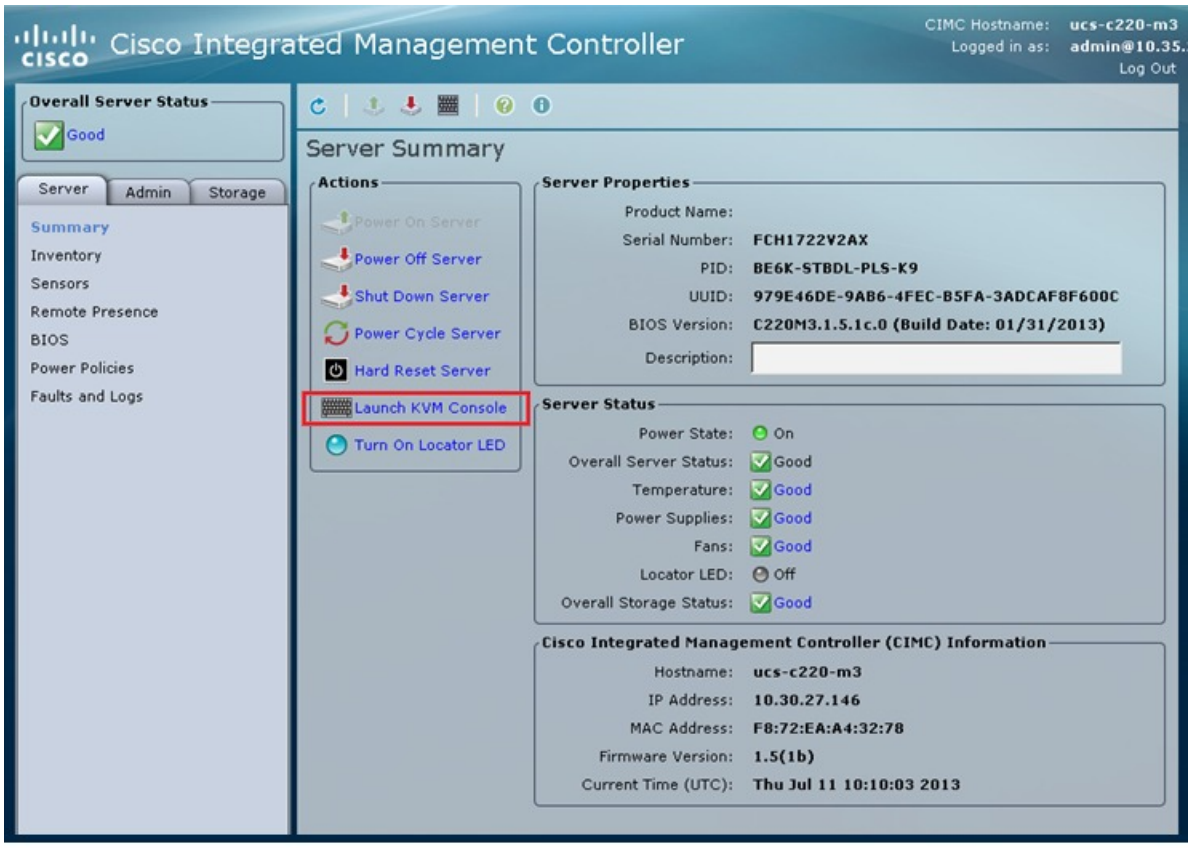
ステップ 6　（任意）**F8** キーを押すと、CIMC 構成ダイアログを開き管理インターフェイス IP アドレスを設定してダイアログを終了できます。

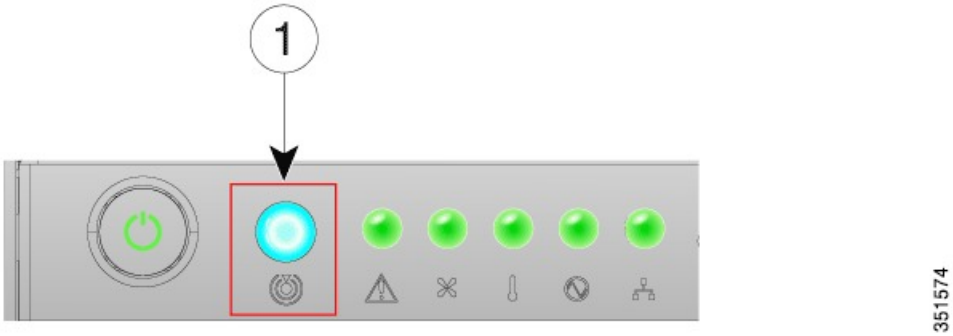
Cisco Integrated Management Controller（CIMC）は、C シリーズ サーバ用の管理インターフェイスです。 CIMC はサーバ内で実行し、Web または SSH コマンドライン アクセスにより、サーバのリモート管理、設定、およびモニタリングを可能にします。

ステップ 7　（任意）コンソールへのアクセスに CIMC を使用する場合は、設定した IP アドレスに移動し、デフォルトのユーザ名 admin とパスワード password を使用します。 図 2 は CIMC 画面です。 ロケー

タ LED や、図 3 でマークされている KVM コンソールなど、さまざまなタスクに対して CIMC をナビゲートします。

図 2： ***Cisco Integrated Management Controller***





ステップ 8 ESXi がロードされ、コンソールに設定画面が表示されるまで待機します。

リモート アクセスのための ESXi ホストのカスタマイズ

ESXi ホスト（VMware ハイパーバイザ）をカスタマイズして vSphere クライアントを使用した PC からのリモート アクセスを有効にするには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 ハイパーバイザが起動されると、次の図に示すように、ESXi Direct Console のユーザインターフェイスがモニタ上に表示されます。

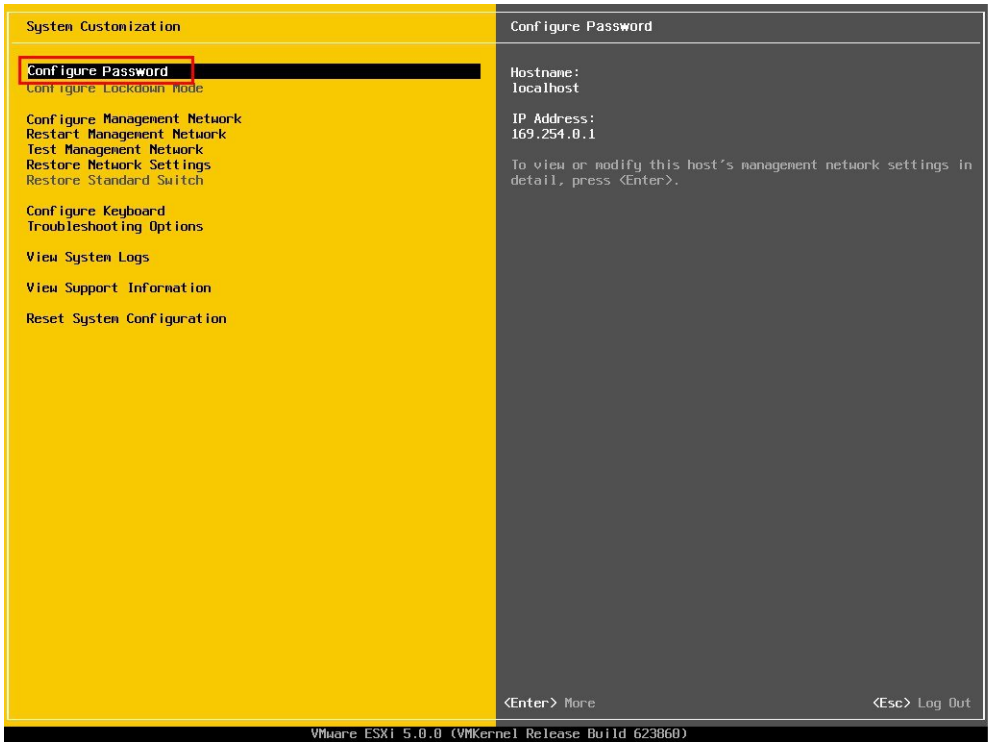
（注） リリース 10.5(1) 以降の場合、プレインストール済みアプリケーションについて通知を受けます。

図 *3*： *ESXi* のロード後のコンソール画面

ステップ 2 **F2** キーを押して、次の図に示すような [System Customization] メニューに入ります。

デフォルトのユーザ名は root で、パスワードは password です。

図 4： ***ESXi*** **システム カスタマイズ メニュー**



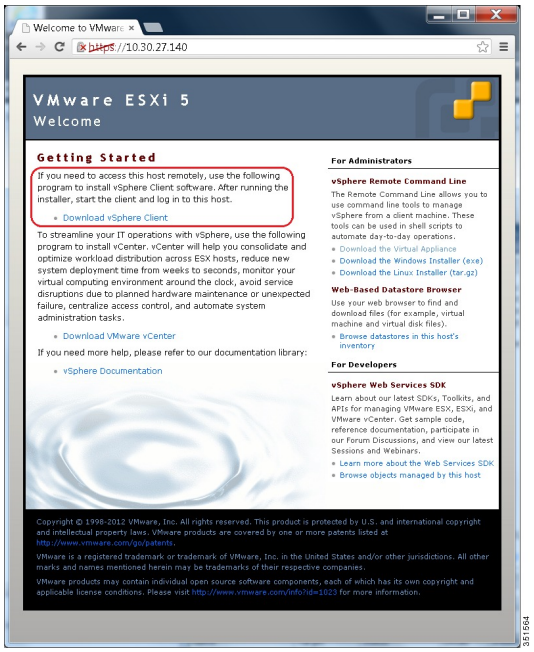
ステップ 3 [Configure Password] を選択してパスワードを変更します。

ステップ 4 ESXi に固定 IP アドレスを割り当てます。 [Configure Management Network] メニューに入り、下図に示すように、画面の指示に従って “IP Configuration” を変更します。

図 *5*： *ESXi* ホストへの固定 *IP* アドレスの割り当て

ステップ 5 PC をデータ ネットワークに接続し、前の手順で設定した ESXi の IP アドレスに移動できることを確認します。 下図に示すように Web ページを確認します。

図 *6*： *ESXi* ホスト



ステップ 6 vSphere クライアントが PC にインストールされていない場合は、ダウンロードしてインストールします。
vSphere クライアントをダウンロードするには、インターネット アクセスが必要です。

ESXi ホストへのアクセスおよびその設定

Business Edition アプリケーションの中には、有効な NTP サーバのサービスを必要とするものがあります。 次の手順に従って、ESXi ホストにアクセスし、NTP を設定し、NIC チーミング機能を使用してネットワーク インターフェイス カード（NIC）の耐障害性を設定し、プレインストールされたアプリケーションを表示し、データストアを参照して、事前にロードされたコラボレーション アプリケーション ソフトウェアを確認します。

手順

ステップ 1 vSphere クライアント アプリケーションを起動し、ESXi ホストの IP アドレスを入力します。

図 7： ***vSphere* クライアントを使用した *ESXi* ホストへのアクセス**

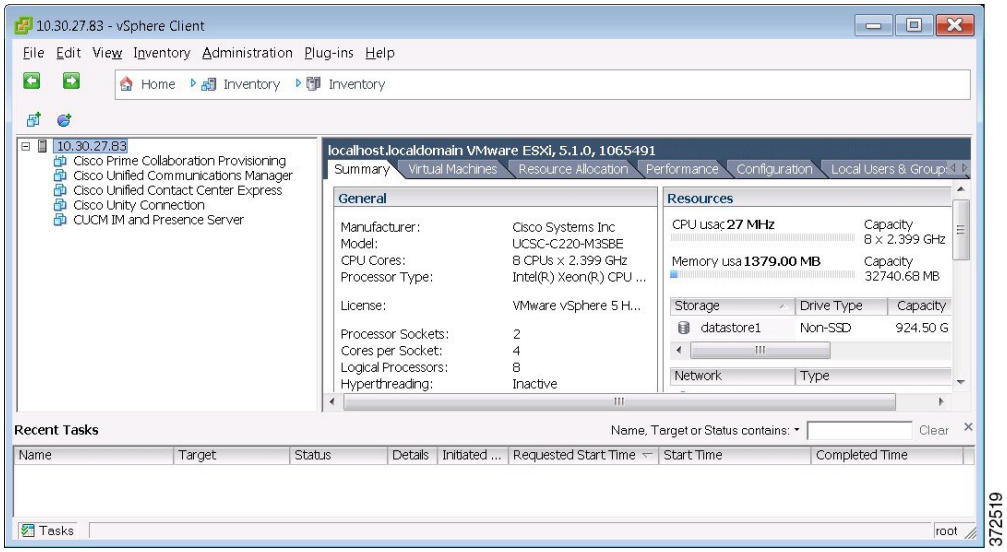
ステップ 2 ESXi システムのカスタマイズ時に設定したログイン クレデンシャルを使用します。

ステップ 3 （任意） VMware ライセンスはプレインストールされておらず、評価期間 60 日のライセンスの警告が表示される場合があります。 UCS サーバで出荷時状態へのリセットを実行するときも、この警告が表示される場合があります。 このような場合にライセンスを適用するには、次の手順に従います。 これらの手順を使用して、ライセンス ステータスを確認することもできます。

a) 梱包ボックスで、“Cisco Vmware vSphere Hypervisor” とマークされたエンベロープを見つけます。
b) エンベロープ内で “Right to Use Notification” という名前のカードを見つけます。
c) マスター シリアル番号に注意してください。これはライセンス アクティベーション キーです。
d) [Configuration] > [Software] > [Licensed Features] に移動し、[Edit] をクリックします。
e) [Assign a new license key to this host] を選択します。
f) [Enter Key...] をクリックします。
g) マスター シリアル番号を入力します。
h) [OK] をクリックして、設定ダイアログを閉じ、ライセンスを適用します。

図 8： ***ESXi* ホストおよび仮想マシンの設定および管理**

（注） 次の図の左側ペインに、プレインストール済みアプリケーションが表示されています。



ステップ 4 NTP サーバを追加します。

a) [Configuration] > [Software] > [Time Configuration] に移動します。

b) [Properties] をクリックして、**[Time Configuration]** 画面を起動します。

c) 時間を更新し、[Options...] をクリックします。

d) [NTP 設定（NTP Settings）] を選択します。

e) [Add] をクリックし、NTP サーバの IP アドレスを入力します。

f) [OK] をクリックして、[General] を選択し、[Start] を選択してホストで停止し、[Start] ボタンをクリックし、続いて [OK] をクリックして設定画面を閉じます。

ステップ 5 VMware の NIC チーミング機能を使用して、耐障害性を設定します。

a) [Configuration] > [Hardware] > [Networking] に移動します。

b) 下図に示すように、“Standard Switch: vSwitch0” の [Properties] をクリックします。

c) **vSwitch0 Properties** 設定画面で、[Network Adapters] タブを選択します。

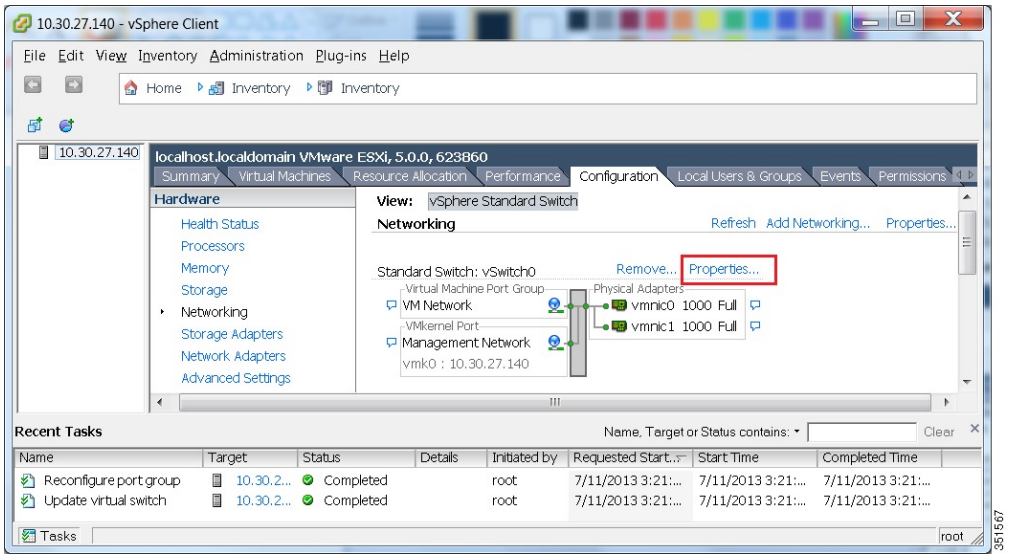
d) データ ネットワークに接続されている NIC を追加するには、[Add…] をクリックします。

e) 対話形式の設定ダイアログに従い、下図に示すように、複数の NIC が vSwitch0 に追加されたことを確認したら画面を閉じます。

（注） デフォルトでは、ESXi で有効な NIC は 1 つだけで、vmnic0 として識別されます。

（注） チーム構成された NIC を Cisco スイッチのチャネル グループに接続する場合は、NIC チーミング ロード バランシング ポリシーが [Route based on IP hash] に設定されていることを確認します。 このポリシーおよび Cisco Collaboration アプリケーションのハイパーバイザ ネットワークの他の側面に関する詳細については、『*Deploying Expressway with Business Edition*（*Business Edition* での *Expressway* の展開）』（http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/cucm/BE6000/InstallationGuide/10_01/Deploying_Expressway_with_Business_Edition.pdf）を参照してください。

図 *9*： *Business Edition* ネットワーク接続の耐障害性



ESXi ホストは、個々のコラボレーションアプリケーションをホストする仮想マシンを展開できるようになりました。 これらのアプリケーションのソフトウェアは、Business Edition サーバのデータストアにあらかじめロードされています。

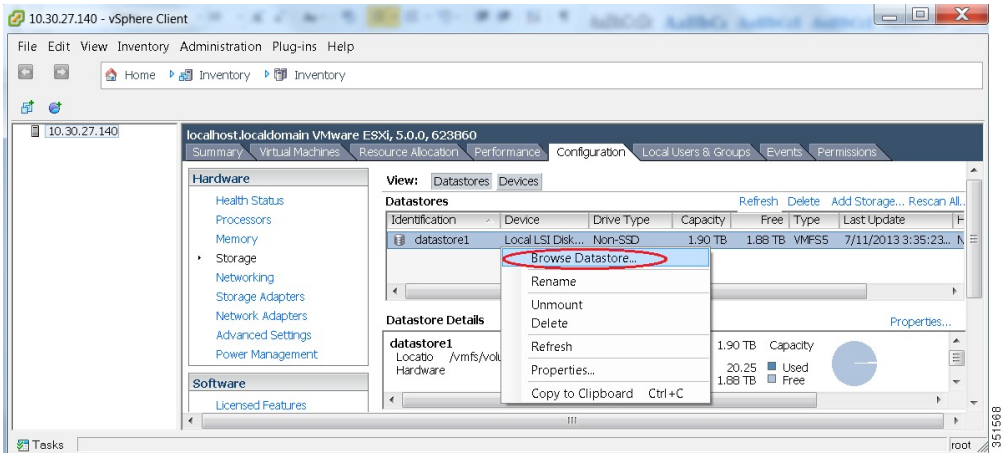
ステップ 6 データ ストアを参照します。

a) [Configuration] > [Hardware] > [Storage] に移動します。

b) Business Edition サーバのデータストアをリスト表示するには、[Datastore] をクリックします。

c）データストアを選択して、右クリックし、下図に示すように [Browse Datastore] を選択します。

図 *10*：プリロード コラボレーション ソフトウェア、ライセンス、および *Open Virtualization Archive* ファイルを表示するためのデータ ストアの参照



ステップ 7　（任意）トラブルシューティングのために返品された場合、新しいUCS サーバのデータストアがブランクになる可能性があるので、OVA-ISO ディレクトリをアーカイブすることが推奨されます。

次の作業

仮想マシンをインストールします。

データストアにプリロードされたファイル

Cisco Business Edition サーバには、選択されたコラボレーション ソフトウェア、ライセンス ファイルが付属され、これらはデータストアにプリロードされます。プリロードされるファイルタイプの基礎知識として、次の点を考慮してください。

ISO

ISO ファイルは DVD イメージで、アプリケーション インストール ファイルを含んでいます。

OVA

Open Virtualization Archive（OVA）を使用して、仮想マシンのパッケージを作成し、配布します。

一部の OVA ファイルには、プレインストールされたソフトウェア（たとえば、`cpc-provisioning-9.5.0-245-small.ova`）を含む準備済みのディスクが含まれている場合があります。

OVA ファイルの中には、プレインストールされたソフトウェア アプリケーションがないものもあります。 この場合、データストアで提供される ISO ファイルを使用してソフトウェアをインストールする必要があります（たとえば、`cucm_9.1_vmv8_v1.7.ova` および関連 ISO ファイル `Bootable_UCSInstall_UCOS_9.1.2.10000-28.sgn.iso`）。

（注） Export Restricted ソフトウェアまたは Export Unrestricted ソフトウェアのプリロード済みファイルについては、関連するリリース ノートを参照してください。

仮想マシンの展開

次の手順に従い、あらかじめロードされたファイルにリスト表示されているアプリケーションの仮想マシンを導入します。 Export Restricted または Export Unrestricted ソフトウェアにあらかじめロードされたファイルについては、次のリンク先から関連するリリース ノートを参照してください。http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-release-notes-list.html

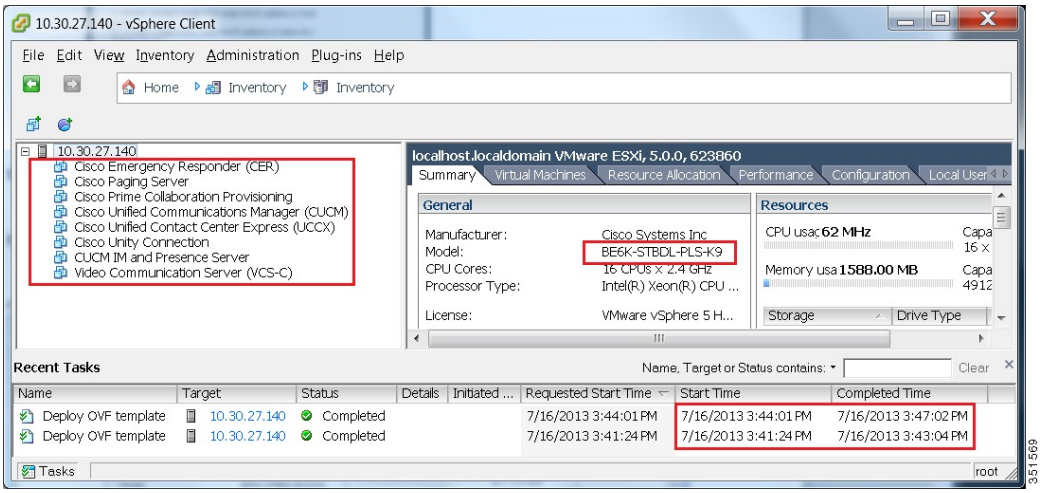
OVA テンプレート ファイルは、特定アプリケーションの仮想マシンを定義します。

次の点に注意してください。

- OVAs は瞬時に展開され、プレインストール済み OVA の導入には 10 分から 15 分かかる場合があります。
- 下図は、各種コラボレーション アプリケーションの仮想マシン導入後の vSphere クライアントの図を示しています。 直前の 2 つの仮想マシンを展開するのにかかった時間も表示できます。
- 下図の例は、4 つのコラボレーション アプリケーションと Prime Collaboration Provisioning をホストできる、高密度（HD）サーバ モデルです。 Business Edition サーバの中密度（MD）サーバ モデルも、4 つのコラボレーション アプリケーションと Prime Collaboration Provisioning をホストできます。

図 *11*： ***vSphere*** クライアントに表示されるアプリケーション用に展開された仮想マシン

（注） リリース 10.5(1) 以降では、5 つのアプリケーションがプレインストールされています。 この 5 つのアプリケーションのいずれかを使用して仮想マシンを導入する場合は、次の手順を省略できます。



手順

ステップ 1 vSphere クライアント上で、[File] > [Deploy OVF Template] に移動します。
[Deploy OVF Template] 画面が起動されます。

ステップ 2 PC 上でソースの OVA テンプレート ファイルを参照し、選択します。 アプリケーションとファイル名のマッピングについては、以下のリンク先から Export Restricted ソフトウェアに関するリリース ノートを参照してください。http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-release-notes-list.html

ステップ 3 引き続き [Next] をクリックして、ライセンス契約およびデフォルト値を受諾します。

ステップ 4 展開を設定します。

- Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unity Connection および IM and Presence Service の場合、1000 ユーザを選択します。
- Cisco Unified Contact Center Express の場合、100 エージェントを選択します。
- Cisco Emergency Responder の場合、12000 ユーザ ノード（ドロップダウン メニューから C200 のみ）を選択します。

ステップ 5 VM に意味のある名前を指定します。

次の作業

必要な仮想マシンをすべて展開した後、個々のコラボレーション アプリケーションをインストールします。

仮想マシン上でのアプリケーションのインストール

指定した仮想マシン上でアプリケーションをインストールおよびセットアップするには、次の手順に従ってください。

各アプリケーションに必要なおおよその時間は次のとおりです。

- Cisco Unified Communications Manager：60 分
- Cisco Unity Connection：60 分
- Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service：45 分
- Cisco Prime Collaboration：30 分
- Cisco Unified Contact Center Express：60 分
- Cisco Emergency Responder：45 分
- Video Communication Server：60 分
- Cisco Paging Server：15 分

（注）

- 同じ ISO イメージを使用するため、Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection を同時にインストールしないでください。
- 時間を短縮するために、同時に複数のアプリケーションをインストールできます。
- リリース 10.5(1) 以降では、プレインストール済みアプリケーションをインストールする所要時間は約 20 分以内です。

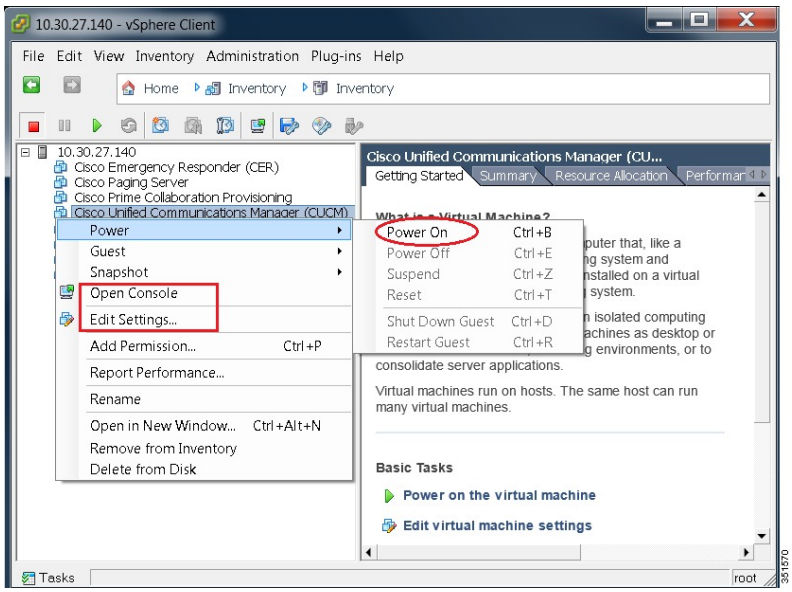
手順

ステップ 1 データ ネットワーク管理者に問い合わせて、“準備”で説明したネットワーク情報を確実に収集します。

ステップ 2 必要な時間を最小限にするために、アプリケーションのインストール順序を計画します。

ステップ 3 vSphere クライアントを使用して、アプリケーションの仮想マシンを選択します。 クライアントは、パネル名をアプリケーション名に変更し、“Getting Started” という名前のタブをもう 1 つ追加します。 下図に示すように、右クリックしてアクション メニューを開きます。

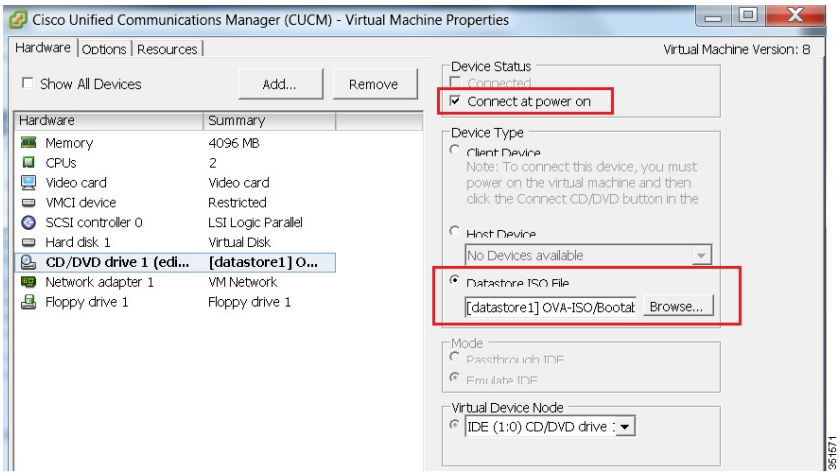
図 *12*：アプリケーション *VM* を選択して、設定の編集、*ISO* と *VM* の関連付け、電源投入、他の管理アクションなどを行います。



ステップ 4 ブランク OVA テンプレートを使用して展開された VM では、電源オン時にアプリケーション ソフトウェアの ISO イメージを接続するように仮想マシンの設定を編集する必要があります。 Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection が同じ ISO ファイルを使用することに留意してください（以下の Cisco Business Editition 6000 用のプリロードされたファイルを参照：http://

www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-release-notes-list.html）。

図 *13*：アプリケーション ソフトウェアの *ISO* イメージを接続するための仮想マシン設定の編集



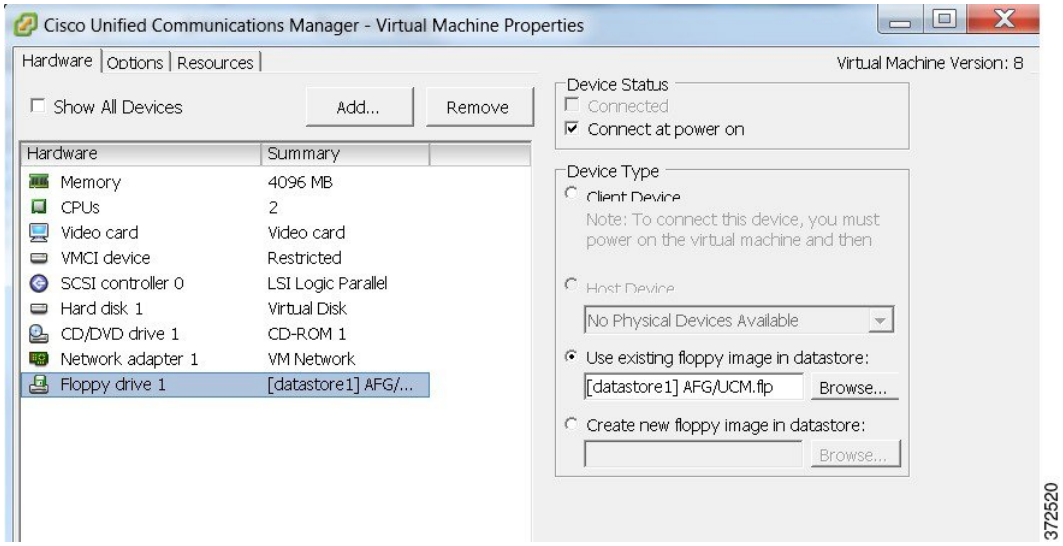
a) [Device Type] セクションで、[Datastore ISO File] オプション ボタンを選択します。
b) データ ストアを参照し、アプリケーションの ISO ファイルを選択します。
c) 下図に示すように、[Connect at Power On] ボックスを必ずオンにしてください。

ステップ 5 図 12 に示すように、右クリック メニューで [Edit Settings] を選択します。 図 13 に示すように、[Virtual Machines Properties] 編集画面が表示されます。

a) 次の URL にアクセスし、`platformconfig.xml` ファイルを生成します。http://www.cisco.com/web/cuc_afg/index.html
b) 任意のフリーウェア仮想フロッピー アプリケーションを使用して、platformconfig.xml ファイルを ***.flp** イメージに変換し、この *.flp イメージをデータストアの Answer File Generator ディレクトリにコピーします。

c) データストアから *.flp ファイルを取得するように、フロッピー ドライブの設定が変更されていることを確認します。

図 *14*：フロッピー ドライブを接続して *FLP* ファイルから構成設定を読み込むように、仮想マシン設定を編集します。



ステップ 6 各アプリケーションのインストールを開始するには、次の手順に従ってください。インストールはステップ 2. にリスト表示されている時間で自動的に続行されます。

a) 図 12 に示すように、右クリック メニューを使用して仮想マシンの電源をオンにし、コンソールを開きます。

b) コンソールの対話型インストール手順に従ってください。

c) デフォルトを受け入れて、ステップ 1 で収集した情報を提示します。 コンソールに正常にログインできたときに、インストールは完了し、成功です。

- Prime Collaboration の場合、“localhost login:” の設定を入力した後にインストールが開始されます。 その後、インストール スクリプトにより、ネットワーク情報およびさまざまなクレデンシャル（admin、root、globaladmin のパスワード）情報が要求されます。 インストールは 30 分間継続します。
- VCS サーバの場合、初回のユーザ名とパスワードとして admin と TANDBERG を使用した後に開始されます。 “Run install wizard [n]:” と求められたときに y と入力すると、対話型インストールが続行されます。

（注） インストールの詳細なガイダンスが必要な場合は、“詳細”にリスト表示されている Cisco Business Edition 7000 Support Documents Web サイトでアプリケーションのインストール ガイドを参照してください。

次の作業

必要なすべてのアプリケーションをインストール後に、Web ブラウザを使用してアプリケーションにアクセスし、一部のアプリケーションの初期設定を行います。

アプリケーションのインストールの例

次は、Cisco Unified Communications Manager（ブランク OVA）および Cisco Video Communications Server（プレインストール OVA）をインストールする手順です。

（注） 前のセクションで説明されているように、アプリケーションがプレインストール済みで、FLP ファイルが Answer File Generator ディレクトリにコピーされると、インストーラの操作なしでインストールが自動的に行われます。

Cisco Unified Communications Manager のインストール

手順

ステップ 1 図 12 に示すように、電源をオンにし、仮想マシンのコンソールを開きます。

ステップ 2 [DVD Found] ウィンドウで、メディア チェックに対して [No] を選択します。

ステップ 3 [Product Deployment Selection] ウィンドウでは、[Cisco Unified Communications Manager] を選択し、[OK] を選択します。 最後に、次の [Proceed with Install] ウィンドウで [Yes] を選択します。

（注） Enterprise License Manager もこのインストールの一部として展開されます。

ステップ 4 次の操作を行ってください。

a) [Platform Installation Wizard] ウィンドウで [Proceed] を選択します。
b) [Apply Patch] ウィンドウで [No] を選択します。
c) [Basic Install] ウィンドウで [Continue] を選択します。
d) 次のウィンドウで [Timezone] を選択し、続いてイーサネット接続に対して [Auto Negotiation] を選択し、MTU のデフォルトのサイズを選択します。

ステップ 5 DHCP に対して [No] を選択します。

[Static Network Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 ホスト名（CUCM など）、IP アドレス、IP マスク、およびゲートウェイ アドレスを入力し、[OK] を選択します。 DNS クライアントに対して [Yes] を選択し、その後に次のウィンドウで DNS サーバ情報を入力します。

ステップ 7 次の2つのウィンドウで管理ログイン情報および組織情報を設定するように求められ、続いてサーバが最初のノードであるかどうかが確認されます。ほとんどの場合、[Yes] を選択します。

ステップ 8 次のウィンドウで、ネットワーク接続性テストに対して [No] を選択して、再びホスト名、IP アドレス、およびセキュリティ パスワードを提示します。 最後に、有効で到達可能な NTP サーバを指定します。

ステップ 9 次の 2 つウィンドウで、セキュリティ パスワードおよび SMTP サーバ情報を設定するように求められます。 最後に、アプリケーションユーザ情報が要求され、最後のウィンドウプラットフォーム設定の確認が続きます。 [OK] を選択すると、インストールが続行され、コンソールのユーザ操作なしで約 60 分間続きます。 コンソールのログイン プロンプトが表示されたら、Web ブラウザで Unified Communications Manager の IP アドレスにアクセスします。

Cisco Video Communications Server のインストール

手順

ステップ 1 図 12 に示すように、電源をオンにし、仮想マシンのコンソールを開きます。

ステップ 2 ログイン プロンプトでユーザ名として admin、パスワードとして TANDBERG を入力します。

ステップ 3 実行インストール ウィザードのプロンプトで、y を入力して、**Enter** キーを押します。

ステップ 4 パスワードを変更するには、Y を入力して、**Enter** キーを押し、プロンプトに新しいパスワードを入力して、**Enter** キーを押します。

ステップ 5 次の一連のプロンプトはネットワーク情報に関するものです。 IP プロトコル（デフォルトは IPv4）を選択し、IP アドレス、サブネット マスク、およびデフォルト ゲートウェイ アドレスを指定します。 最後に、LAN のイーサネット速度を選択します（デフォルトは auto）。

ステップ 6 SSH（セキュア シェル）の実行デーモンに対して、Y を入力し、**Enter** キーを押します。

ステップ 7 すぐに再起動のプロンプトで、y を入力して、**Enter** キーを押します。

ステップ 8 システムを再起動した後に、Web ブラウザで Cisco Video Communication Server にアクセスします。

第 3 章

初期設定

- ライセンスの参照、セットアップ、および適用，23 ページ
- この後の学習内容，24 ページ
- 詳細情報 ，25 ページ

ライセンスの参照、セットアップ、および適用

各アプリケーションにアクセスし、一部のアプリケーションの初期設定を実行し、ライセンスを適用するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 個々のアプリケーションの管理ポータルにアクセスするには、アプリケーションの IP アドレスに移動します。 次の情報を考慮します。

- ページング サーバ：仮想マシン コンソールからアプリケーション URL に関する情報を収集します。 デフォルトの初回のユーザ名とパスワードは、admin と changeMe です。
- Cisco Prime Collaboration Provisioning：IP アドレスに移動し、ユーザ名として globaladmin を使用します。

ステップ 2 一部のアプリケーションには、評価期間が 60 日のプレインストール デモ ライセンスが付属しています。 2 つのアプリケーションには次の例外があります。

- Cisco Prime Collaboration：データ ストアからライセンス、ツール、Readme ファイルをダウンロードします。 readme ファイルの指示に従い、ライセンス（有効期限のない永久ライセンス）を適用します。
- Cisco Unified Contact Center Express: デモ ライセンスの評価期間は、30 日です。 ISO ファイルからデモ ライセンス ファイルを抽出します。 デモ ライセンス ファイルを PC 上に抽出した

ら、Unified Contact Center Express の ESXi ポータルに移動し、手順に従いデモ ライセンスを適用します。

ステップ 3 ライセンスを購入した後、シスコから電子メールで製品認証キー（PAK）を受信する必要があります。 その後、ソフトウェア ファイル形式のライセンス キーを受信するために PAK を “Product License Registration（製品ライセンス登録）”に登録する必要があります。

ステップ 4 管理ポータルを使用してアプリケーションでライセンス キーを適用します。

- Prime Collaboration Provisioning：製品にはインストールする必要がある永久ライセンスが付属しているので、PAK は必要ありません。
- Paging Server：:製品には基本ページングの永久ライセンスが付属しているので、PAK は必要ありません。
- Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection：Unified Communications Manager の IP アドレスを参照し、[Cisco Prime License Manager] をクリックします。 [License] > [Install License File] を選択し、手順に従います。

  （注） Cisco Prime License Manager（ELM）は、Unified Communications Manager のインストールの一部として自動的にインストールされます。
- Cisco VCS、Expressway、TS、Conductor：VCS の PAK を登録した後、顧客は 2 つのキー（リリース キーとオプション キー）を受信します。 管理ポータルで、[Maintenance] > [Option keys] を選択します。 最初にリリース キーを適用し、次にオプション キーを適用します。

ステップ 5 ソフトウェア バージョンをアップグレードする必要がある場合は、Cisco Product Upgrade Tool (PUT) を使用します。

（注） PUT を使用してアップグレード イメージをダウンロードするには、有効な UCCS サブスクリプションが必要です。

関連トピック

製品ライセンス登録

Cisco Product Upgrade Tool（PUT）

この後の学習内容

インストールが正常に完了したことを確認したら、Cisco Business Edition 6000 サポート ドキュメントの『*Prime Collaboration Provisioning Guide for Cisco Business Edition 6000*』を参照してください。 このガイドを使用して、Unified Communications Manager、Cisco Unity Connection および IM and Presence Service アプリケーションの初期設定を開始します。

詳細情報

- Cisco Business Edition 7000 メイン Web サイト

  http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/business-edition-7000/index.html

- Cisco Business Edition 7000 サポート ドキュメント

  http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/tsd-products-support-series-home.html